国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

平成２３年　四国内一級河川の水質現況の公表について

○一級河川の環境基準適合率が８８．２％を達成
○河川水質ランキングは、穴吹川，後川，貞光川で１位
（穴吹川は平成７年から１７年連続で１位）

四国地方整備局、水資源機構吉野局では、一級河川（直轄管理区間）において、水質調査を実施しています。
この度、平成２３年の四国管内８水系５４地点（類型指定５１地点）における、水質状況をとりまとめましたのでお知らせします。

＜生活環境の保全に関する環境基準の満足状況＞
・四国の一級河川の、BOD（またはCOD）値の環境基準適合状況は８８．２％でした。
＜河川水質ランキング（BOD平均値）＞
・最も水質が良好な河川は、穴吹川、後川、貞光川の３河川でした。
＜人の健康の保護に関する環境基準＞
・全調査地点で、環境基準を満足しました。
＜ダイオキシン類調査＞
・全調査地点で、水質・底質とも環境基準値を満足しました。
＜内分泌かく乱化学物質調査＞
・土器川において重点調査濃度を超過しました。(H24年の新基準ではクリア)
＜水生生物調査＞
・全河川平均の水質階級の割合は、Ⅰきれいな水が62.5%でした。
＜新しい水質指標による調査＞
・従来のBODなどの指標と異なり、ゴミの量や水のにおいなど、人と河川のふれあいや生態系確保の視点など、新しい指標を用いて、住民との協働により水質評価を実施しました。

平成２４年　７月３１日

国土交通省 四国地方整備局
独立行政法人　水資源機構　吉野川局

国土交通省四国地方整備局河川部
河川管理課専門官　柳　忠和
TEL 087-851-8061（内線3753）
独立行政法人水資源機構吉野川局
施設管理課長　　林　健二
TEL 087-835-6600（内線 331）

１．生活環境の保全に関する環境基準の満足状況

BOD（またはCOD）値の環境基準適合状況は８８．２％

仁淀川、物部川、那賀川、吉野川では全ての調査地点において環境基準値を満足しました。

一方、環境基準値を満たしていない地点は、「石手川上流」、「重信川下流」、「矢落川下流」、「四万十川下流」、「土器川下流」の計５地点でした（表-2参照）

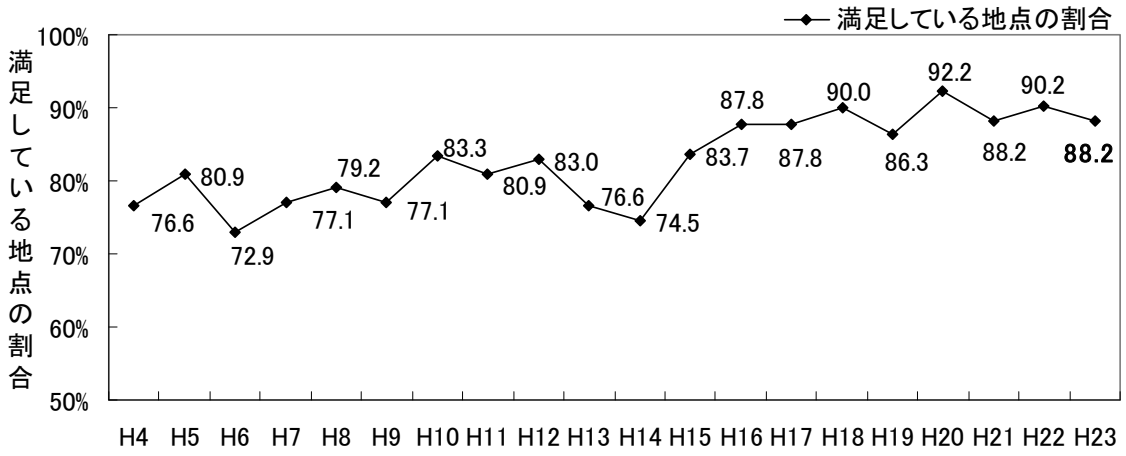


図-１　環境基準を満足した地点の割合（湖沼及び海域を含む。）

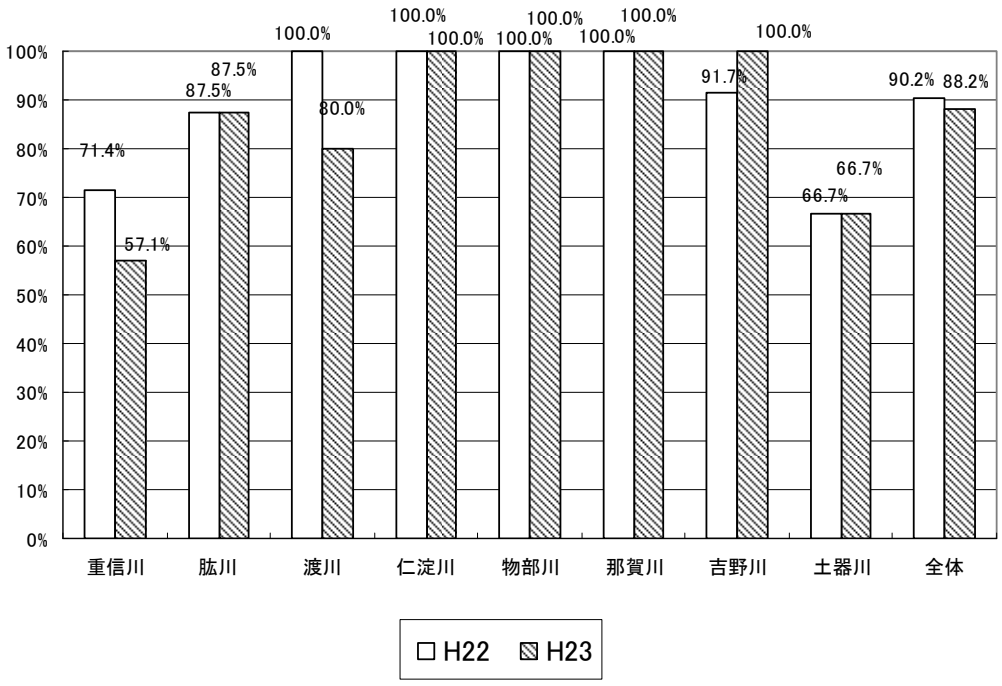


図-2　水系別環境基準値適合状況

２．河川水質ランキング（BOD平均値）

最も水質が良好な河川は、穴吹川、後川、貞光川の３河川。

河川毎にＢＯＤ平均値により比較すると、穴吹川（吉野川水系），後川（渡川水系），貞光川（吉野川水系）で１位であり、穴吹川は、平成７年から１７年連続の１位でした。

人の手が入っていない河川並の水質とされるBOD平均値1.0mg/ℓ未満の河川は10河川であり、順位付け対象河川（20河川）の50%を占めています。

表－１　四国河川水質ランキング（８水系２０河川）

水系名	河川名	平成23年				平成22年
		順位	BOD平均値	BOD75%値	調査箇所数	順位
吉野川	穴吹川	1	0.5	0.5	1	1
渡川	後川	1	0.5	0.5	1	1
吉野川	貞光川	1	0.5	0.5	1	1
仁淀川	仁淀川	4	0.6	0.6	4	1
吉野川	吉野川	4	0.6	0.6	2	1
吉野川	旧吉野川	6	0.6	0.7	3	6
那賀川	那賀川	7	0.7	0.7	1	7
肱川	肱川	8	0.7	0.8	4	9
物部川	物部川	9	0.9	0.9	3	9
吉野川	今切川	10	0.9	1.0	2	7
渡川	中筋川	11	1.0	1.2	1	17
渡川	四万十川	12	1.1	1.2	2	9
那賀川	桑野川	12	1.1	1.2	2	13
重信川	重信川	14	1.1	1.5	5	13
土器川	土器川	15	1.3	1.4	3	15
吉野川	鮎喰川	16	1.3	2.1	1	15
仁淀川	波介川	17	1.4	1.3	1	12
肱川	矢落川	18	1.5	2.0	2	17
仁淀川	宇治川	19	1.9	2.7	1	17
重信川	石手川	20	2.8	3.8	1	20

注1 BOD(Biochemical Oxygen Demand)とは、溶存酸素存在のもとで水中の有機物を栄養源として好気性微生物が増殖・呼吸するときに消費される酸素量で、20℃５日間で消費される溶存酸素量(mg/ℓ)を標準とする。一般的に水質汚濁を示す代表的な指標で、水質関係の各種法令で規制項目として採用されている。

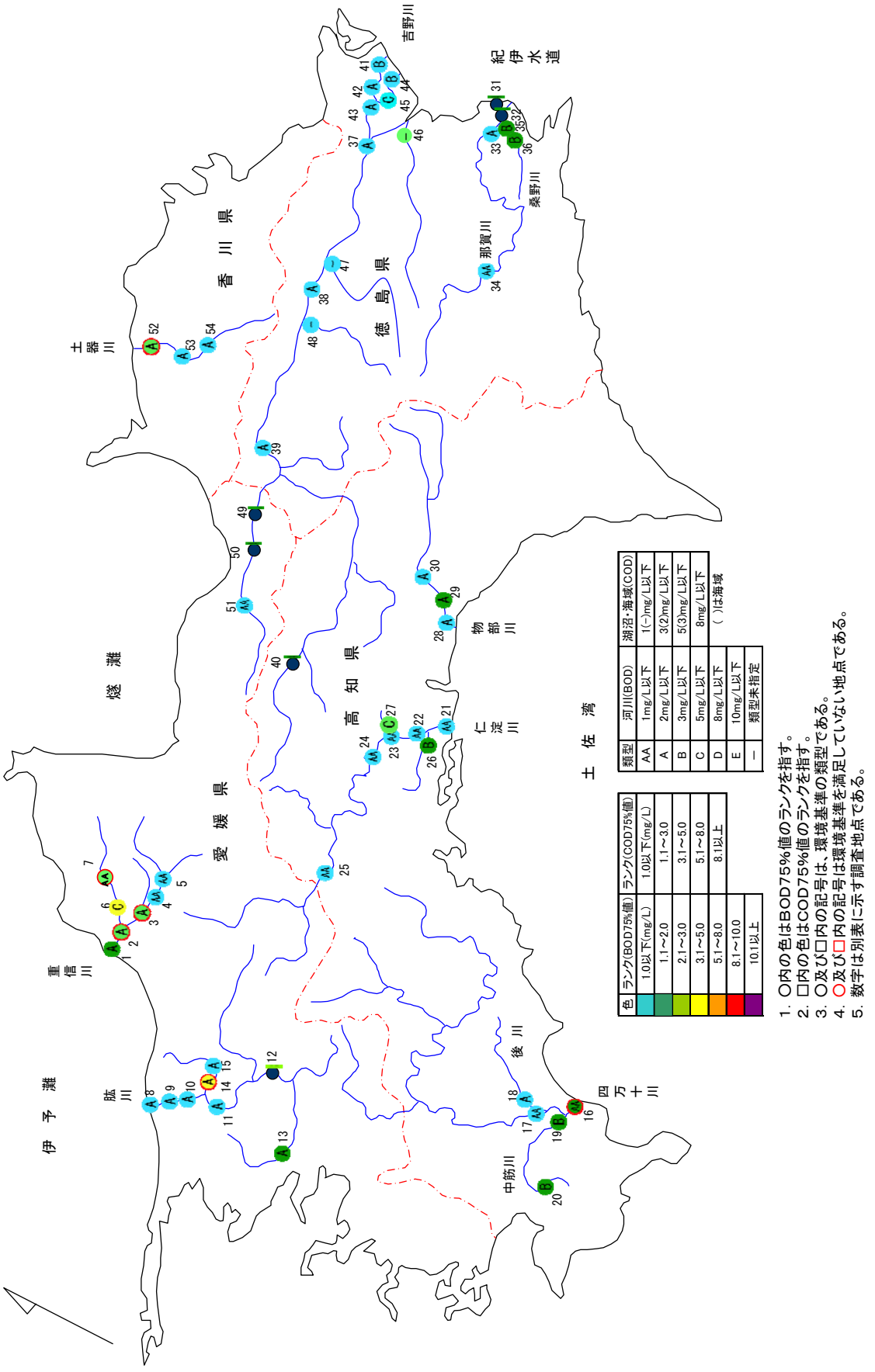
表－２　四国河川水質調査箇所一覧（８水系２０河川）

単位：(mg/L)

番号	水系名	河川名	水質調査地点名	環境基準地点	類型	環境基準値	BOD，COD 注1)７５%値 H22	BOD，COD 注1)７５%値 H23	位置 市郡	位置 町村
1		重信川	川口大橋	○	A	2.0	1.3	1.3	松山市	西垣生町
2	重	重信川	出合橋	○	A	2.0	1.5	× 2.1	伊予郡	松前町
3		重信川	中川原橋	○	A	2.0	× 2.2	× 2.3	伊予郡	松前町
4	信	重信川	重信橋	○	AA	1.0	0.9	0.7	松山市	森松町
5		重信川	拝志大橋	○	AA	1.0	0.9	0.9	東温市	田窪
6	川	石手川	市坪		C	5.0	2.3	3.8	松山市	市坪町
7		石手川	石手川ダム	○	AA	1.0	× 1.2	× 2.4	松山市	宿野町
8		肱川	長浜大橋		A	2.0	1.1	0.6	大洲市	長浜町
9	肱	肱川	大和橋		A	2.0	1.1	0.7	大洲市	長浜町
10		肱川	祇園大橋	○	A	2.0	1.0	0.9	大洲市	八多喜
11		肱川	肱川橋	○	A	2.0	0.7	0.9	大洲市	大洲
12		肱川	鹿野川ダム	○	湖 B	5.0	[3.1]	[3.4]	大洲市	肱川町
13	川	肱川	野村ダム		A	2.0	× 2.7	1.5	西予市	野村町
14		矢落川	生々橋	○	A	2.0	1.8	× 3.3	大洲市	五郎
15		矢落川	新大橋		A	2.0	1.1	0.6	大洲市	新谷町
16		四万十川	下田		AA	1.0	0.8	× 1.6	四万十市	下田
17	渡	四万十川	具同	○	AA	1.0	0.6	0.8	四万十市	具同
18		後川	後川橋	○	A	2.0	0.5	0.5	四万十市	京町
19	川	中筋川	山路橋	○	B	3.0	1.6	1.2	四万十市	山路
20		中筋川	中筋川ダム		B	3.0	0.7	1.1	宿毛市	平田
21		仁淀川	仁西		AA	1.0	0.5	0.6	高知市	春野町
22	仁	仁淀川	中島		AA	1.0	0.5	0.5	土佐市	中島
23		仁淀川	八田堰	○	AA	1.0	0.6	0.7	吾川郡	いの町
24	淀	仁淀川	伊野	○	AA	1.0	0.5	0.5	吾川郡	いの町
25		仁淀川	大渡ダム		AA	1.0	0.9	0.9	吾川郡	仁淀川町
26	川	波介川	小野橋	○	B	3.0	1.2	1.3	土佐市	中島
27		宇治川	音竹	○	C	5.0	1.5	2.7	吾川郡	いの町
28	物	物部川	深渕		A	2.0	0.7	0.6	香南市	野市町
29	部	物部川	戸板島		A	2.0	1.2	1.5	香美市	土佐山田町
30	川	物部川	山田堰	○	A	2.0	0.7	0.7	香美市	土佐山田町
31	那	那賀川	富岡水門		海 A	2.0	[2.1]	[1.3]	阿南市	横見町
32		那賀川	JR那賀川鉄橋	○	海 A	2.0	[2.0]	[1.7]	阿南市	那賀川町
33	賀	那賀川	那賀川橋	○	A	2.0	0.8	0.7	阿南市	羽ノ浦町
34		那賀川	長安口ダム		AA	1.0	0.9	0.7	那賀郡	那賀町
35	川	桑野川	富岡新橋	○	B	3.0	1.2	1.2	阿南市	富岡町
36		桑野川	領家		B	3.0	1.1	1.1	阿南市	領家町
37		吉野川	高瀬橋	○	A	2.0	0.6	0.6	名西郡	石井町
38		吉野川	脇町潜水橋		A	2.0	0.5	0.5	美馬市	脇町
39	吉	吉野川	池田ダム		A	2.0	0.5	0.6	三好市	池田町
40		吉野川	早明浦ダム	○	湖 A	3.0	[1.7]	[1.6]	土佐郡	土佐町
41		旧吉野川	大津橋	○	B	3.0	0.6	0.6	鳴門市	大津町
42		旧吉野川	牛屋島橋		A	2.0	0.5	0.7	鳴門市	大麻町
43		旧吉野川	市場橋	○	A	2.0	0.7	0.7	板野郡	板野町
44	野	今切川	加賀須野橋	○	B	3.0	0.7	0.9	徳島市	川内町
45		今切川	鯛浜堰上流	○	C	5.0	0.7	1.0	徳島市	川内町
46		鮎喰川	鮎喰		指定なし		1.3	2.1	徳島市	北田宮
47		穴吹川	穴吹		指定なし		0.5	0.5	美馬市	穴吹町
48		貞光川	貞光		指定なし		0.5	0.5	美馬郡	つるぎ町
49	川	銅山川	新宮ダム	○	湖 A	3.0	× [3.2]	[2.0]	四国中央市	新宮町
50		銅山川	柳瀬ダム	○	湖 A	3.0	[2.4]	[1.9]	四国中央市	金砂町
51		銅山川	富郷ダム		AA	1.0	0.7	0.8	四国中央市	富郷町
52	土	土器川	丸亀橋	○	A	2.0	× 2.7	× 2.2	丸亀市	土器町
53	器	土器川	祓川橋		A	2.0	0.6	1.0	仲多度郡	まんのう町
54	川	土器川	常包橋		A	2.0	0.8	1.0	仲多度郡	まんのう町

［　］：ＣＯＤ値

図－３　水質調査箇所



1. ○内の色はBOD75%値のランクを指す。
2. □内の色はCOD75%値のランクを指す。
3. ○及び□内の記号は、環境基準の類型である。
4. ○及び□内の記号は環境基準を満足していない地点である。
5. 数字は別表に示す調査地点である。

３．人の健康の保護に関する環境基準

人の健康の保護に関する環境基準（健康項目）については、全調査地点で環境基準を満足。

「人の健康の保護に関する環境基準」（以下「健康項目」という。）は、環境基本法に基づき公共用水域に一律に適用されるものとして、27項目が定められています（表-２参照）。

健康項目全体の環境基準は、全調査地点（８水系４２地点）において環境基準を満足しました。

表-3　人の健康の保護に関する環境基準

カドミウム	0.003　mg/ℓ以下	１．基準値は年間平均値とする。ただし全シアンに係る基準値については最高値とする。
全シアン	検出されないこと	
鉛	0.01　mg/ℓ以下	
六価クロム	0.05　mg/ℓ以下	
砒素	0.01　mg/ℓ以下	２．「検出されないこと」とは定められた測定方法により測定した場合において、その結果が定量限界を下回ることをいう。
総水銀	0.0005 mg/ℓ以下	
アルキル水銀	検出されないこと	
ＰＣＢ	検出されないこと	
ジクロロメタン	0.02　mg/ℓ以下	
四塩化炭素	0.002　mg/ℓ以下	３．海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。
１，２－ジクロロエタン	0.004　mg/ℓ以下	
１，１－ジクロロエチレン	0.1　mg/ℓ以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04　mg/ℓ以下	４．硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の濃度は、測定された硝酸イオンの濃度に換算係数0.2259を乗じたものと亜硝酸イオンの濃度に換算係数0.3045を乗じたものの和とする。
1,1,1-トリクロロエタン	1　mg/ℓ以下	
1,1,2-トリクロロエタン	0.006　mg/ℓ以下	
トリクロロエチレン	0.03　mg/ℓ以下	
テトラクロロエチレン	0.01　mg/ℓ以下	
１，３－ジクロロプロペン	0.002　mg/ℓ以下	
チウラム	0.006　mg/ℓ以下	
シマジン	0.003　mg/ℓ以下	
チオベンカルブ	0.02　mg/ℓ以下	
ベンゼン	0.01　mg/ℓ以下	
セレン	0.01　mg/ℓ以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10　mg/ℓ以下	
ふっ素	0.8　mg/ℓ以下	
ほう素	1　mg/ℓ以下	
１，４－ジオキサン	0.05　mg/ℓ以下	平成21年11月追加

４．ダイオキシン類調査

ダイオキシン類調査は、全調査地点で、水質・底質とも環境基準値を満足。

平成11年度から、「ダイオキシン類対策特別措置法」で定義されているダイオキシン類について、一級水系で継続的に水質と底質の調査を実施している。水質、底質ともに全調査地点（８水系１６地点）で要監視濃度値を超える調査地点はありませんでした。

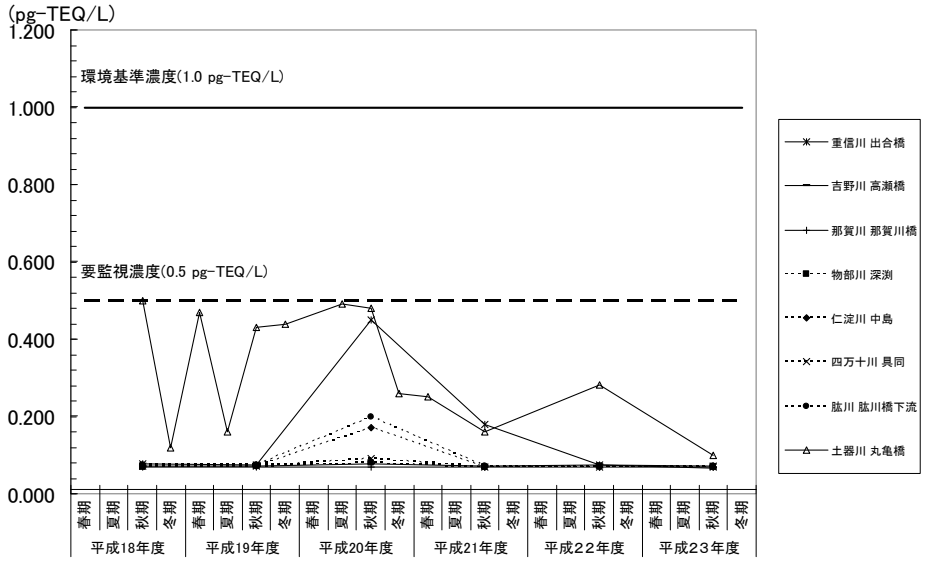


図-4　調査結果（水質）

水系名	河川名	調地点	県名	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度（予定）	備 考
重信川	重 信 川	拝志大橋	愛媛県		◎			◎			○	
	重 信 川	重信橋	愛媛県		◎			◎			○	
	重 信 川	中川原橋	愛媛県	◎	◎			◎			○	
	重 信 川	出合橋	愛媛県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	石 手 川	石手川ダム	愛媛県		◎			◎			○	
肱 川	肱　 川	肱川橋下流	愛媛県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	肱　 川	鹿野川ダム	愛媛県			◎			◎			
	肱　 川	野村ダム	愛媛県			◎			◎			
渡 川	四万十川	具同	高知県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	中 筋 川	中筋川ダム	高知県			◎			◎			
仁淀川	仁 淀 川	中島	高知県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	仁 淀 川	大渡ダム	高知県			◎			◎			
物部川	物 部 川	深渕	高知県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
那賀川	那 賀 川	那賀川橋	徳島県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	那 賀 川	長安口ダム	徳島県				◎			◎		
吉野川	吉 野 川	高瀬橋	徳島県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
	銅 山 川	柳瀬ダム	愛媛県	◎			◎			◎		
	吉 野 川	早明浦ダム	高知県	◎			◎			◎		
	吉 野 川	池田ダム	徳島県	◎			◎			◎		
	銅 山 川	新宮ダム	愛媛県	◎			◎			◎		
	旧吉野川	旧吉野川河口堰	徳島県	◎			◎			◎		
	今 切 川	今切川河口堰	徳島県	◎			◎			◎		
	銅 山 川	富郷ダム	徳島県	◎			◎			◎		
土器川	土 器 川	丸亀橋	香川県	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

表-4　調査計画

５．内分泌かく乱化学物質調査

内分泌かく乱化学物質は、土器川において重点調査濃度を超過。
（Ｈ２４年の新基準ではクリア）

国土交通省では、動物の生体内に取りこまれた場合に本来その生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性物質（以下「内分泌かく乱化学物質」という。）として疑いのある物質について、今後の対策検討のための基礎資料とすることを目的として平成１０年より全国の一級河川における実態調査を実施しています。

調査は、水質・底質調査ともに６年サイクルで行います。なお重点調査濃度を超過した地点は、３年連続して重点調査濃度値未満になるまで調査を行います。

今年度は、土器川の水質調査において対象物質のエストロン濃度が0.00058μg/Lあり、重点調査濃度（0.0005μg/L）を超過しましが、H24年に重点調査濃度が改訂になり、新基準ではクリアとなります。（エストロンの重点調査濃度は、0.0005μg/L→0.0016μg/Lに改訂）

表-5　調査計画

番号	水系名	河川名	地点名	水質調査										底質調査									
				H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
				秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋	秋
①	重信川	重信川	出合橋	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●					
②	吉野川	吉野川	高瀬橋			●						●						●					
③	那賀川	那賀川	那賀川橋	●			●						○	●						●			
④	物部川	物部川	深渕	●			●						○	●						●			
⑤	仁淀川	仁淀川	中島	●			●						○	●						●			
⑥	渡川	四万十川	具同		●			●							●						●		
⑦	肱川	肱川	肱川橋下流		●			●							●						●		
⑧	土器川	土器川	丸亀橋	●	●	●	●	●	●	●	●	●						●					

表-6　調査対象物質

	物質名	平成23年度	平成24年度	備　考
水質	4-t-ｵｸﾁﾙﾌｪﾉｰﾙ	①, ②, ⑧	③, ④, ⑤	環境省のリスク評価において内分泌かく乱作用が確認された物質
	ﾉﾆﾙﾌｪﾉｰﾙ	①, ②, ⑧	③, ④, ⑤	環境省のリスク評価において内分泌かく乱作用が確認された物質
	ﾋﾞｽﾌｪﾉｰﾙA	①, ②, ⑧	③, ④, ⑤	文献等において内分泌かく乱作用が確認され、過去の実態調査において検出率が高い物質
	17β-ｴｽﾄﾗｼﾞｵｰﾙ (LC/MS/MS法)	①, ②, ⑧	③, ④, ⑤	文献等において内分泌かく乱作用が確認され、過去の実態調査において検出率が高い物質
	ｴｽﾄﾛﾝ (LC/MS/MS法)	①, ②, ⑧	③, ④, ⑤	文献等において内分泌かく乱作用が確認され、過去の実態調査において検出率が高い物質
	o,p'-DDT	①, ②, ⑧	③, ④, ⑤	魚類に対して内分泌かく乱作用を有することが推測されるとされている物質
底質	ﾍﾞﾝｿﾞ(a)ﾋﾟﾚﾝ			平成13年度調査で検出率が高い

６．水生生物調査

水生生物調査による全河川平均の水質階級の割合は、Ⅰきれいな水が、62.5%。

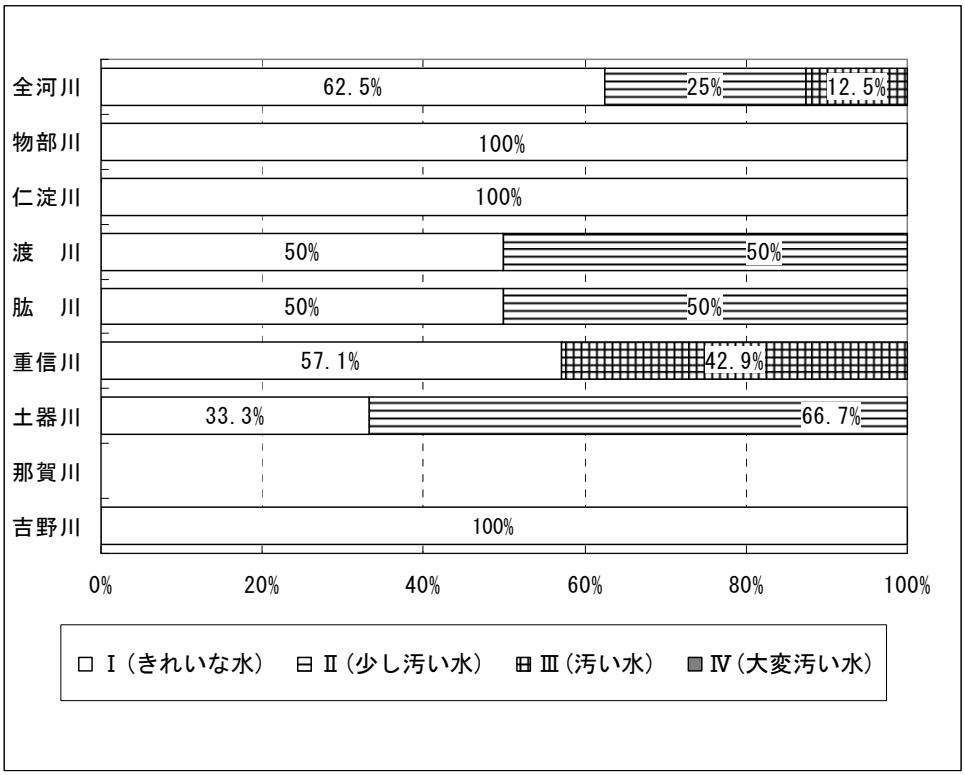
サワガニ、カワゲラ等の河川に生息する水生生物は、水質汚濁の長期的・複合的な影響を反映していると考えられており、これらを指標とした水質の簡易調査は、誰でも調査に参加できるという利点を持っています。

小学生、中学生、高校生及び一般市民等の参加を得て、水生生物による水質の簡易調査を実施しています。

表－7　指標生物

段　階	水　生　生　物
Ⅰきれいな水	カワゲラ、ナガレトビケラ、ヒラタカゲロウ、サワガニ、ブユ等
Ⅱ少しきたない水	コガタシマトビケラ、オオシマトビケラ、ゲンジボタル、スジエビ等
Ⅲきない水	ミズムシ、ミズカマキリ、タイコウチ、タニシ、ヒル等
Ⅳ大変きたない水	セスジユスリカ、チョウバエ、エラミミズ、アメリカザリガニ等

６水系２０箇所の判定結果を評価すると、全河川の水質階級の割合は、Ⅰが62.5%、Ⅱが25%、Ⅲが12.5%、Ⅳが0%となっており、水生生物から見た四国全体の河川水質は良好ですが、重信川では「Ⅲきたない水」に生息する水生生物が多く見られました。



図－5　水生生物から評価した水質階級

７．新しい水質指標による調査

従来のBODなどの指標と異なり、ゴミの量や水のにおいなど、人と河川のふれあいや生態系確保の視点など、新しい指標を用いて、住民との協働により水質評価を実施。

（１）調査の概要

１）新しい水質指標とは

新しい水質指標とは、人と河川のふれあいや生態系への関心など、多様な視点で河川が捉えられるようになってきている現在の状況を鑑み、河川をＢＯＤだけでなく多様な視点で評価できるように検討された指標です。

評価の視点は、「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」「利用しやすい水質の確保」「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」の４つですが、「下流域や滞留水域に影響の少ない水質の確保」以外の視点については評価項目と評価レベルが設定されています。このうち「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、一部の評価項目を住民と河川管理者とが協働で調査しています。

新しい水質指標は、平成 17 年 3 月に「今後の新しい水質指標（案）について」（国土交通省河川局河川環境課）としてとりまとめられ、これに基づいて、平成 17 年 4 月より四国では一級水系の国管理区間を対象に実施しています。

２）住民参加人数

住民との協働による測定を実施する「人と河川の豊かなふれあいの確保」「豊かな生態系の確保」では、延べ約 1,000 人の一般参加をいただきました。

３）評価方法

評価項目ごとに評価ランクを決めた上で、まず調査回ごとに最も低い項目別評価ランクを、その地点のその調査時の総合評価ランクとします。

1 年間の調査時の総合評価ランクのうち最頻ランクを、その地点の年間の総合評価ランクとします。

（２）「人と河川の豊かなふれあいの確保」からみた水質の現況

「人と河川の豊かなふれあいの確保」は、快適性や安全性といった、人が河川とふれあう際に、河川水質が確保すべき機能を評価するものです。

表-8　人と河川の豊かなふれあいの確保（赤枠内は住民と協働調査）

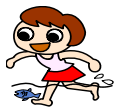
ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル 全国共通項目 ゴミの量	透視度（cm）	川底の感触	水のにおい	糞便性大腸菌群数（個/100mL）	地域特性項目 当該河川・地点の特性や地域住民のニーズに応じて独自に設定
A	顔を川の水につけやすい（泳ぎたいと思うきれいな川）		川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である	不快でない	100以下	・住民と共に独自に設定 ・文献等から設定
B	川の中に入って遊びやすい		川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない		1000以下	
C	川の中には入れないが、川に近づくことができる		川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの	
D	川の水に魅力がなく、川に近づきにくい		川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる		

表-9　調査結果（人と河川の豊かなふれあいの確保）

水系名	河川名	調査地点名	調査日	ゴミの量	透視度	川底の感触	水のにおい	糞便性大腸菌群数	地点評価	地点の年間評価
重信川	重信川	木地堰堤	7月14日	A	A	A	A	―	A	A
		重信橋	9月30日	B	―	B	A	―	B	B
			8月25日	A	―	B	A	―	B	
		出合橋	7月14日	B	B	B	C	―	C	C
		中川原橋	8月25日	B	―	C	A	―	C	C
		拝志大橋	7月15日	A	―	B	A	―	B	B
			8月25日	A	―	B	A	―	B	
		山之内	8月25日	A	―	A	A	―	A	A
	石手川	市坪	8月25日	B	―	B	A	―	B	B
渡川	四万十川	具同	7月14日	A	A	A	A	A	A	A
	後川	後川橋	7月11日	A	A	A	A	B	B	B
	中筋川	江ノ村	7月4日	B	C	B	C	B	C	C
仁淀川	仁淀川	中島	7月14日	A	A	A	A	A	A	A
			7月15日	A	A	A	A	A	A	
物部川	物部川	戸板島	6月10日	A	A	B	A	―	B	B
吉野川	吉野川	学島橋下流	7月25日	A	―	A	A	―	A	A
		西条大橋上流	7月25日	A	―	A	A	―	A	A
		美馬橋下流	7月28日	A	―	B	A	―	B	B
土器川	土器川	丸亀橋	8月25日	A	A	A	A	B	B	B
		祓川橋	8月25日	A	A	A	A	B	B	B

（３）「豊かな生態系の確保」からみた水質の現況

「豊かな生態系の確保」は、動植物の生息や生育、繁殖といった、河川の健全な生態系を確保する上で、河川水質が満たすべき機能を評価するための視点です。

表-10 「豊かな生態系の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		河川管理者による測定項目		住民との協働による測定項目
		DO(mg/L)	NH4-N(mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	Ⅰ．きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	Ⅱ．少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とは言えない	3以上	2.0以下	Ⅲ．きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	Ⅳ．大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ等

表－11「豊かな生態系の確保」全調査地点の評価ランク

水系名	河川名	調査地点名	調査日	DO	NH4-N	水生生物の生息	地点評価	地点の年間評価
重信川	重信川	木地堰堤	7月14日	―	―	A	A	A
		重信橋	8月25日	―	―	A	A	A
			9月30日	―	―	A	A	
		出合橋	7月14日	―	―	C	C	C
		中川原橋	8月25日	―	―	C	C	C
		拝志大橋	7月15日	―	―	B	B	B
			8月25日	―	―	A	A	
		山之内	8月25日	―	―	A	A	A
	石手川	市坪	8月25日	―	―	C	C	C
渡川	四万十川	具同	7月14日	A	A	B	B	B
	後川	後川橋	7月11日	A	A	A	A	A
	中筋川	江ノ村	7月4日	A	A	B	B	B
仁淀川	仁淀川	中島	7月14日	A	A	A	A	A
			7月15日	A	A	A	A	
物部川	物部川	戸板島	6月10日	A	―	A	A	A
吉野川	吉野川	学島橋下流	7月25日	―	―	A	A	A
		西条大橋上流	7月25日	―	―	A	A	A
		第十堰貯水池内	7月26日	A	A	―	A	A
		美馬橋下流	7月28日	―	―	A	A	A
			7月28日	―	―	A	A	
	穴吹川	穴吹新橋	7月6日	A	A	A	A	A
	旧吉野川	大津橋	7月26日	A	A	―	A	A
	今切川	加賀須野橋	7月26日	A	A	―	A	A
	鮎喰川	鮎喰	7月26日	A	A	―	A	A
土器川	土器川	祓川橋	8月25日	A	A	B	B	B
		丸亀大橋	8月25日	A	A	A	A	A

（4）「利用しやすい水質の確保」からみた水質の現況

「利用しやすい水質の確保」は、現状において特に水質的課題が顕著である「上水利用」に注目し、安全性や快適性、維持管理性（浄水処理管理）といった、河川水質が確保すべき機能を評価するための視点です。

表－12 「利用しやすい水質の確保」の評価項目と評価レベル

ランク	説明	評価項目と評価レベル 河川管理者による測定項目			
		トリハロメタン生成能（μg/L）	2-MIB（ng/L）	ジオスミン（ng/L）	NH_4-N（mg/L）
A	より利用しやすい	100以下	5以下	10以下	0.1以下
B	利用しやすい		20以下	20以下	0.3以下
C	利用するためには高度な処理が必要	100を超えるもの	20を超えるもの	20を超えるもの	0.3を超えるもの

表－13「利用しやすい水質の確保」全調査地点の評価ランク

水系名	河川名	調査地点名	調査日	トリハロメタン生成能	2－MIB	ジオスミン	NH4-N	地点評価	地点の年間評価
吉野川	吉野川	高瀬橋	1月18日	A	A	A	A	A	B
			7月26日	A	B	A	A	B	
	旧吉野川	市場橋	1月18日	A	A	A	A	A	A
			7月26日	A	A	A	A	A	
土器川	土器川	丸亀橋	7月14日	C	A	A	A	C	C